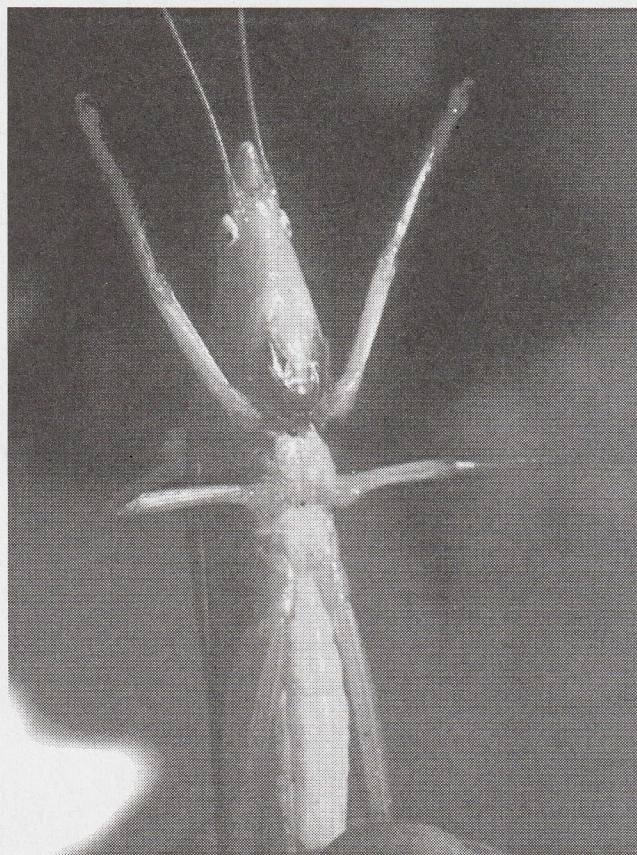


# 協議会ニュース

No. 173

2022.03



## Contents

- 1 表紙
- 2 書面表決書(書面議決)について
- 3 本県における生態系ネットワークの形成について
- 4 岐阜県博物館と岐阜県自然観察指導員連絡会の紹介
- 5 なごやの生き物一斉調査報告 2021 (テントウムシ編)
- 6 愛知県の外来植物 5
- 7 小幡緑地・竜巻池池畔(湿地シリーズ 8)
- 8 わが支部自然自慢 其 2 豊橋公園
- 9 支部総会報告  
愛知県野生生物保護実績発表大会報告
- 10 ご案内/編集後記

## 事務局

愛知県自然環境課国際連携・生態系グループ

尾張支部 山田 博一

名古屋支部 脇田 剛

東三河支部 瀧崎 吉伸

名古屋支部 石原 則義

東三河支部 星野 芳彦

尾張支部 内海 勇夫

協議会会長 浅井 聡司

## 事務局

今号の表紙

クビキリギスの成虫  
成虫越冬

(名古屋支部) 平山 希能(投稿)  
生き物のアップの写真大募集

## 書面表決書(書面議決)について

理事会

### 令和4年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)のお知らせ

愛知県自然観察指導員連絡協議会の活動に日頃よりご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて愛知県自然観察指導員連絡協議会では、例年3月に定期総会を開催してきましたが、新型コロナウイルスは感染拡大の方向にあり、収束するに至っていません。そのため総会は自粛した方が良くと考え、書面議決を行います。

つきましては、通常総会資料の第1～5号議案をご覧いただき、令和4年3月20日必着で書面表決書を事務局(ハガキ同封)までご送付ください。

議案の可否につきましては、ご提出いただいた書面表決書のうち、賛成が過半数を超えた場合に可決といたします。

なお、令和4年2月11日の理事会において、各議案については審議済みです。

### 書面表決書

令和4年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)について、次のとおり議決に関する権限を行使します。(※各議案について「賛成」「反対」のどちらかに○を付けてください。)

|       |              |    |   |    |
|-------|--------------|----|---|----|
| 第1号議案 | 令和3年度事業報告    | 賛成 | ・ | 反対 |
| 第2号議案 | 令和3年度決算報告    | 賛成 | ・ | 反対 |
| 第3号議案 | 令和4年度役員(案)   | 賛成 | ・ | 反対 |
| 第4号議案 | 令和4年度事業計画(案) | 賛成 | ・ | 反対 |
| 第5号議案 | 令和4年度予算(案)   | 賛成 | ・ | 反対 |

【意見】(※ご意見がありましたらお書きください。)

支部名 ・名古屋 ・尾張 ・知多  
・西三河 ・東三河 ・その他

氏名

# 本県における生態系ネットワークの形成について

愛知県自然環境課 国際連携・生態系グループ 佐橋順子

愛知県では、2030 年度までに取り組む生物多様性保全の施策の方向性を示す「あいち生物多様性戦略 2030」を 2021 年 2 月に策定しました。

この戦略では、2050 年に向けた長期目標として「人と自然が共生するあいち」の実現を掲げており、これを目指して、中核的な取組方針である「あいち方式 2030」により、多様な主体が共通の目標のもとにコラボレーション（協働）し、人と人とのつながりを育みながら、生物多様性の意識を高め、保全の取組を進めることとしています。

具体的には、「生態系ネットワークの形成」と「生物多様性主流化の加速」を両輪とし、それらの推進に資する様々な施策を展開しています。

県は、生態系ネットワークの形成を促進するため、2011 年から 2016 年にかけて、県内 9 地域において、県民や事業者、NPO、行政といった地域の多様な主体から構成される生態系ネットワーク協議会の設立を進め、2016 年からは協議会間の連携促進や情報共有を目的とし、協議会構成団体の相互交流を図る「地区間交流会」を毎年開催しています。

## 各生態系ネットワーク協議会の取組テーマと構成団体

(2022 年 1 月 1 日現在)

| 協議会名  | 設立年月     | 取組テーマ                              | 会長（所属）<br>（敬称略）         | 構成団体 |     |            |       |    |     |
|-------|----------|------------------------------------|-------------------------|------|-----|------------|-------|----|-----|
|       |          |                                    |                         | 大学等  | 企業等 | 農林漁業<br>団体 | NPO 等 | 行政 | 計   |
| 知多半島  | 2011. 1  | ごんぎつねと住める知多半島を創ろう                  | 大東憲二（大同大学教授）            | 3    | 16  | -          | 10    | 11 | 40  |
| 東部丘陵  | 2011. 3  | 23 大学が先導する、ギフトチョウヤトンボの舞うまちづくり      | 吉田耕治<br>（金城学院大学准教授）     | 23   | 6   | -          | 3     | 11 | 43  |
| 西三河   | 2011. 3  | 最先端のものづくりと最先端のエコロジーが好循環する暮らしを 目指して | 武田 稯<br>（名古屋大学名誉教授）     | 6    | 7   | 2          | 10    | 8  | 33  |
| 尾張北部  | 2013. 10 | 《うらやま》の豊かな自然を再発見しよう                | 林 進<br>（大山里山学研究所理事長）    | 3    | 4   | -          | 6     | 5  | 18  |
| 新城設楽  | 2013. 10 | 樹を活かす、地域を活かす、森のちからと人の営みが調和する奥三河    | 功刀由紀子<br>（愛知大学名誉教授）     | 1    | 6   | -          | 8     | 5  | 20  |
| 東三河   | 2014. 2  | 穂の国いきものがたり 子どもたちへ 水と緑でつなげよう        | 梶野保光<br>（東三河自然観察会理事）    | 4    | 12  | -          | 10    | 5  | 31  |
| 渥美半島  | 2015. 1  | 海と大地の恵みを活かし、人と自然を未来につなぐ渥美半島の創造     | 後藤尚弘<br>（東洋大学教授）        | 3    | 9   | 1          | 21    | 3  | 37  |
| 西三河南部 | 2016. 2  | きらきら光る 碧い海 ～西三河 沿岸が育む生きものたちのつながり～  | 谷地俊二<br>（人間環境大学准教授）     | 3    | 10  | 4          | 6     | 4  | 27  |
| 尾張西部  | 2016. 11 | サギやケリの舞う生命（いのち） 豊かな尾張平野をめざして       | 長谷川明子（ビオトープ・ネットワーク中部会長） | 3    | 11  | -          | 15    | 18 | 47  |
| 合計    |          |                                    |                         | 49   | 81  | 7          | 89    | 70 | 296 |

各協議会においては、あいち森と緑づくり税を活用するなどし、活発な活動が行われていますが、2019 年度からは、生態系ネットワーク形成に向けた取組成果の「見える化」を図るため、生物多様性モニタリング調査を実施しています。これは、スマートフォンやデジタルカメラで指標となる植物や昆虫などの写真を撮り、インターネット上に投稿いただくことにより、その種類、数、位置などが地図情報システムに整理され、閲覧することができますというものです。投稿は誰でも、いつでも可能ですので、ぜひご覧いただき、投稿していただければと思います。

投稿サイトはこちら⇒



(あいち生物多様性戦略 2030 より抜粋)

## 岐阜県博物館と岐阜県自然観察指導員連絡会の紹介

尾張支部 山田 博一

### 岐阜県博物館



岐阜県博物館は関市の自然豊かな百年公園内にあります。岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）、自然（動物、植物、地学、古生物）などに関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究及びそれらの活用をはかっています。現在は岐阜県の自然の成り立ちや、自然と人との関わり方についても研究して展示しています。

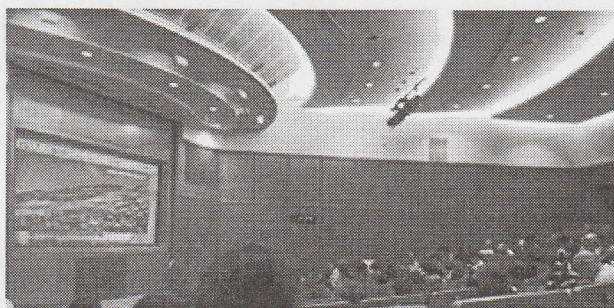
〒501-3941 岐阜県関市小屋名 1989

TEL (0575) 28-3111

入場料：一般 340 円、大学生 110 円、  
高校生以下は無料です。

### 岐阜県自然観察指導員連絡会

岐阜県在住の自然観察指導員の集まりです。ホームページを連絡の場所にする画期的な方法で会費は無料になっています。



【昨年の総会の様子】

連絡はメールで行っており、総会＋自然観察会や交流会＋自然観察会、シンポジウムを行っています。

総会は、午前中は岐阜県博物館で行われ、午後は百年公園で自然観察会を行います。



【総会の後半の自然観察会】

運営方針は「会の運営は世話役の善意によって行われる。世話役に対して文句や批判は言わない。運営に不満がある場合は世話役になって、思いが実現するように運営に携わる。会員はフラットな関係を保つ」という方法で仲良くやっています。

岐阜県自然観察指導員連絡会ウェブサイト

<http://www.ccn.aitai.ne.jp/shin-owlclub/>

（尾張自然観察会HPからリンクできます）



【総会後の自然観察会の集合写真】

# なごやの生き物一斉調査報告 2021(テントウムシ編)

名古屋支部 脇田 剛

2021年9月23日(木)～26日(日)の4日間とその前後約1か月間にわたり、名古屋市内の73地点と市外12地点の計85地点で調査を行った。

市民の参加者は連携した団体を含め、991名、名古屋支部の30名以上の自然観察指導員がリーダーとサブリーダーなどを務めた。

テントウムシ調査の意義は、(1)地元の環境に興味を持ち、色々なテントウムシを観察して生物多様性を知る。(2)テントウムシの生態系の多様性を知る。(3)新たなテントウムシを見つける。そして外来種の分布を解明する、とされた。

## 調査結果

すべてのテントウムシを調査対象にした。体長2mm以下のものも多く、テントウムシかどうか疑わしいものもすべて採集し、最終的に講師がすべて再同定した。

市内外の85地点で、総計2,050個体が確認された。そのうちテントウムシは42種、1,676個体で、名古屋市内で初記録の14種が含まれる。

現在までに名古屋市内で記録されているテントウムシは40種であるが、今回の調査では36種、1,528個体が見つかった。

名古屋市に分布しているテントウムシの外来種は、クモガタテントウとベタリアテントウであったが、今回の調査でツシママダラテントウ、ツマアカオオヒメテントウ、モンクチビルテントウ、ミスジキイロテントウの4種が加わり、計6種となった。(市外の12地点の調査結果報告は省略)。

## 生息環境別の分布

50個体を超えて見つかったのは、ナナホシテントウ、キイロテントウ、クモガタテントウなど13種であった。採取場所は樹木の枝先が最も多く、次に草地、そして荒れ地の順で、この3カ所で全体の82.6%となった。

## 矢田川緑地と千代田橋緑地

私がリーダー、櫻井さんがサブリーダーとして参

加した矢田川緑地では、全個体数67頭の半数以上がナナホシテントウで、子どもたちは虫かごに沢山入れたナナホシテントウを見て満面の笑顔であった。矢田川の2地点で見つかったモンクチビルテントウはヨツボシテントウによく似ているが、名古屋市内で初めての記録である。

隣の千代田橋緑地では全域で草刈りが行われており、全個体数は18頭と少なかった。



モンクチビルテントウ  
体長: 2.3～3.0 mm



ヨツボシテントウ  
体長: 2.9～3.7 mm

## テントウムシの生息環境に関して

ナナホシテントウは草地で、ナミテントウは樹木で多く記録されるなどされたことから、種によって生息環境がかなり異なることが分かった。

在来種は多くの種が2～4種類の環境を利用しているのに対して、外来種は5種類の環境を利用して分布を拡大していると推察する。

即ち、テントウムシは種によって草地、樹木、植え込み、水辺など色々な環境を利用していることが分かる。

千代田橋緑地 櫻井玲子リーダーの感想:

リーダーをお引き受けしてから、当日まででできる範囲で準備はしたものの、進行するに従い難しさを感じました。特にコロナ対策・熱中症対策は参加者への気配りが徐々に疎かになってしまったような気がしました。色々な苦難はありましたが、参加者の特にお子さんの元気な姿や上手な腕前に大変助けられ教えられました。テントウムシの同定について、全く知らないものが多かったのですが、詳しく調査して教えていただいたので、視野が広がりました。

# 愛知県の外来植物 5

東三河支部

瀧崎 吉伸（愛知県外来種検討委員）

## 4. 緑化材由来の帰化植物-1(イネ科編)

新しく道路を作った際などに、法面の崩落を抑えるため、植物の種子を吹き付けて緑化するという方法がしばしば採られてきました。これにより日本に最初に広がった植物は南アフリカ原産のシナダレスズメガヤ（Weeping Lovegrass）*Eragrostis curvula* (Schr.) Nees であることは有名です。東



シナダレスズメガヤ

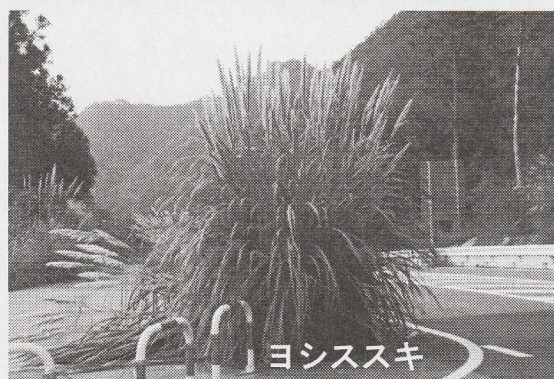
名・名神高速道路の法面に吹き付けられ、種子が車にひっつくなどして運ばれることで、あっという間に全国に広がりました。現在では、至る所の道ばたに生育し、長い穂を風に揺らせています。よく観察すると春に穂を上げ葉が巻き込むタイプと、秋まで穂を上げ続け葉が巻かないタイプ（セータカカゼクサとも呼ばれる）があることに気づきます。

その後、緑化材に用いられたのは、本来は牧草としてネズミムギ *Lolium multiflorum* Lam. とホソムギ *L. perenne* L. を交配して開発されたネズミホソムギ *L. × hybridum* Hausskn. のうち、牧草としての性質が劣るものが格安に販売され広い範囲に吹き付けられました。一部は除草剤耐性を獲得し、麦畑の強害雑草になっています。

近年では、国土交通省が建設する道路の法面に、沖縄県で環境省の重点対策外来種に指定を受けているヨシススキ *Erianthus*



ネズミホソムギ



ヨシススキ

*arundinaceum* (Retz.) Jeswiet. が、吹付素材として用いられて、三遠南信道・紀勢道などの道路の法面に吹き付けられ、大変な猛威を振るっています。3mにもなる幹と、密生する株は、そこに他の植物の生育を許しません。おそらく、どこかの業者がススキ *Miscanthus sinensis* Andersson と誤って用いたものと考えられます。国道23号線の蒲郡バイパスや種子が運ばれた新東名高速道でも大変なことになっています。早急に何らかの手を打つべきです。道路近隣の林の中にまで生育地を広げています。

## 小幡緑地・竜巻池池畔(湿地シリーズ 8)

名古屋支部 石原 則義

竜巻池の湿地は長い間放置されていたのでカワヤナギ群落やクロミノニシゴリ群落にはスイカズラ、ミヤコイバラ、ネザサがはびこっていました。

2012 年 11 月のなごや生物多様性保全活動協議会主催による竜巻池の池干しをきっかけに「竜巻池を美しくする会」ができました。小幡緑地本園は県の都市公園ですが、竜巻池は、名古屋市守山土木事務所の管轄です。

2013 年 4 月から準備会として湿地の保全作業をはじめました。同じ 4 月、湿地内でマメナシ(絶滅危惧種 1A 類レッドデータブックあいち 2020)の実生(芽生え)を発見しました。マーキングを施し、今も 2 本は幼木として元気に育っています。

2014 年 5 月に正式に「竜巻池を美しくする会」を発足しました。

2016 年にはカワヤナギ群落を覆っていたスイカズラやミヤコイバラ、ネザサを取り除いたら、樹高 3.5m のマメナシを発見しました。

2019 年にはクロミノニシゴリ(東海丘陵要素植物)の樹勢調査(開花数調査、樹高調査、枝張り調査、結実調査)をしました。池畔には 100 本ほどありました。

2020 年にはマメナシの樹勢調査をしました。マメナシの成木 17 本(1.5m 以上)、幼木 20 本(50cm 以上 1.5m 未満)ありました。

クロミノニシゴリを覆っていたスイカズラやミヤコイバラの除去、周辺の下草刈りをしたお蔭で、クロミノニシゴリ群落が、風通しも良くなり、すっきりしました。

湿地内には、トウカイコモウンセゴケ、シロイヌノヒゲ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ヌマトラノオ、ヌマガヤな

どがあります。

竜巻池池畔には、アオコウガイゼキショウ、コゴメイ、ボントクタデ、ニッポンイヌノヒゲ、カンガレイ、コアゼガヤツリ、ヒメクグ、ヒメホタルイ、テンツキ、イヌノハナヒゲ、イグサ、ミミカキグサなどが咲いているので、湿地の植物観察にはもってこいの場所です。

池畔はエコトーンになっており、砂地もあり、バッタトレイル(バッタさんや虫さんの観察道)となっています。2020 年のなごや生き物一斉調査(バッタ編)に参加しました。クルマバッタは、半自然草原(周囲を樹林に囲まれた日当たりが良く、草丈が 10cm ぐらいの乾いた草地)に生息します(内田、2005)。この時の調査では、小幡緑地のみでクルマバッタの生息が確認されました。市内には半自然草原に近い環境は見られますが、草原の管理や利用により、環境変化の敏感なクルマバッタは、生息できなくなっていました。竜巻池の湿地ではバッタが生息しやすいように、下草を刈る時期をずらしたり、越冬場所を刈らずに残したりしています。人と自然との繋がりを考える時には、昆虫との共生も重要な要素ではないでしょうか。



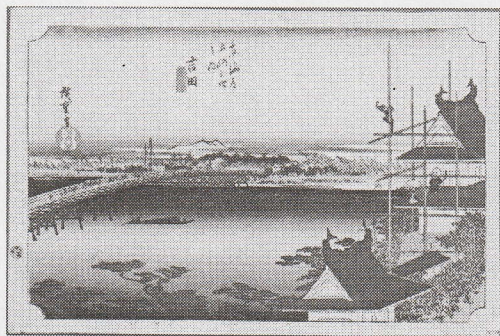
竜巻池池畔の湿地の保全作業

## わが支部自然自慢 其2 豊橋公園 (東三河支部)

東三河支部長 星野 芳彦

協議会ニュース 167 号からの新連載記事 2 回目の登場となり、今回は、私たちが定例観察会の会場としている豊橋公園をご紹介します。

当支部は、2022 年 2 月現在 NACS-J の講習の受講者・未受講者合わせて 75 名が所属し、毎年 4 回の地域観察会(これは、担当幹事が会場や内容を企画します。)と同一会場で 2 か月毎に行う定例観察会が活動の中心ですが、これまで定例観察会会場として頻繁に選ばれてきたのが『豊橋公園』です。



↑ 歌川広重 保永堂版 東海道五十三次 吉田

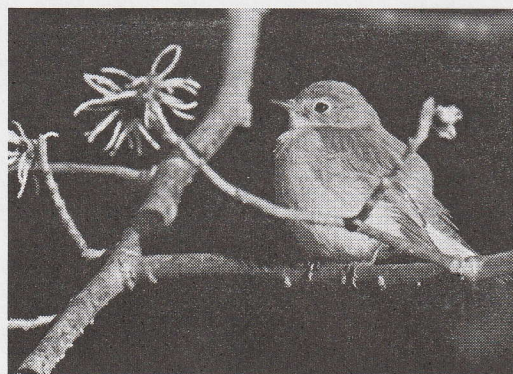
ここは、もともと 16 世紀に築城された今橋城(吉田城、豊橋城と歴史的に呼び名は変更)の城址公園で、市民の憩いの場になっています。本丸や天守はありませんが、豊川沿いに鉄櫓(くろがねやぐら)が復元され、当時の様子を思い起こさせてくれます。明治以降は兵部省が直轄し、大日本帝国陸軍歩兵第 18 連隊が置かれました。戦後は、豊橋公園として整備され、かつては動物園もここにありました。

そのような沿革のため、公園内には、石垣や石碑などの歴史的遺物や戦争遺産をはじめ、市内でも指折りのケヤキやムクノキなどの巨木に出会えます。また、本丸跡を取り囲む空堀周辺は、中核都市の中心部とは思えないほどの豊富な植物相にあふれ、

四季を通じて観察テーマは尽きません。

ここは、魅力的な野鳥観察スポットでもあって、公園内ではカラ類などの小鳥、豊川ではサギ類・カモ類など水鳥にも年中出会えます。

春と秋の渡りの時期や冬期には、思いがけない出会いもあり、2021 年初めには、ニシオジロビタキやトラツグミ、ルリビタキも観察できました。



↑ ニシオジロビタキ 2021年1月

こんなこともありました。テニスコート近くのつる植物が絡みついた立ち木が、あたかも NHK のアンテナに襲い掛かるゴジラに見えたのです(下の画像)。テレビでも紹介されましたが、コロナの緊急事態宣言の為、観察会が出来ずに残念でした。



↑ 2021年5月

去年、豊橋公園にゴジラが出たぞん。スゴイら～？  
標準語訳(去年、豊橋公園には、ゴジラが出たんですよ。  
スゴいでしょ～？)



NPO 法人

東三河自然観察会

## 尾張支部総会報告

尾張支部 内海 勇夫

## 野生生物保護実績発表大会報告

協議会会長 浅井 聡司

日時 令和4年 1月10日（月・祝日）

場所 こまき市民交流テラス

参加者 8名

尾張支部総会は、令和3年度の事業報告・決算報告及び監査、令和4年度の役員・事業計画案・予算案が承認決定されました。

### 尾張支部の今後の方針について

**会計の件：**会費の徴収ですが、今まで会計担当が行っていた未納入者への電話連絡等については控えたいと思います。納入期限4月30日までに入金がない場合は脱会（協議会も含め）とさせていただきます。

**役員の件：**役員のメンバーがほとんど変わることなく行われてきました。このままでは、空中分解してしまいますので、会員の方に順番をお願いしていこうという方向になりました。次回総会までに決定したいと思います。

**通信：**通信の内容が、観察会報告ばかりになっているので、最近観察した事柄や定例会以外の観察会などの投稿も載せたいと思います。よろしくお願いします。

**尾張西部生態系ネットワーク協議会：**尾張西部生態系ネットワーク協議会で行われる観察会に参加する方向で考えています。

尾張支部 令和4年度役員

会長 松尾 初

副会長 平井直人 事務局 内海勇夫

会計 霜 佳子 監査 木村慎一郎

通信編成 高谷昌志 郵送 出口慎治

HP管理 山田博一 HP補助 牧野紀子

昨年度と変更なし

全国学校の児童や生徒が行っている野生生物保護活動に関する情報を共有し、それぞれの活動の底上げを図ることに加え、児童・生徒に発表する機会を提供して自然保護活動を担う人材を育成することを目的としている。環境庁が主催している大会で、今年で55回目を迎え、愛知県大会は51回目になる。

今年度の愛知県大会は8月5日に行われた。発表校9校と発表テーマは以下のようである。

- ・滝脇小(豊田市)「私たちの愛鳥活動」知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ」
- ・美合小(岡崎市)「生田の蛸は「美合の宝」～トライ&エラー 自分でできることに挑戦しよう」
- ・生平小(岡崎市)「野鳥が住み続ける自然豊かな『生平』を目指して」
- ・東海中(岡崎市)「次代へつなぐ私たちの宝～東海の誇りある自然を守るために～」
- ・河合中(岡崎市)「河合の宝 ゲンジボタルー伝統の継続 そして一歩前進」
- ・時習館高(豊橋市)「三河湾の環境調査～海・河川・干潟の環境と生物調査～」
- ・三谷水産高(蒲郡市)「海の豊かさと陸の豊かさを守るために、水産高校生ができること」
- ・桜丘高(豊橋市)「絶滅危惧種「タガメ」の繁殖と展望」
- ・佐屋高(愛西市)「水田生物の保護と生態系の保全」

このうち、滝脇小・生平小・河合中・佐屋高・明和高(特別枠)が全国大会に出場、出場校は40校でオンラインでの発表だった。愛知県では滝脇小が環境大臣賞を受賞した。発表内容は環境庁のホームページで閲覧できるので、ぜひご覧ください。

感想：発表校が固定化しており、全国的に参加する学校が少なくなっている。しかし、自然保護教育の灯火がきえないように願っている。

## あいちの自然観察会

| 実施日      | 時 間        | 実施場所               | テーマ             | 集合場所              | 担 当 |
|----------|------------|--------------------|-----------------|-------------------|-----|
| 5 月 22 日 | 9:30～12:00 | 伊古部海岸<br>(豊橋市伊古部町) | 表浜海岸で風<br>を感じよう | ササユリの里<br>公園 9:00 | 東三河 |

## フォローアップ研修会(ネイチャ・フィーリング)

(公財)日本自然保護協会と愛知県自然観察指導員連絡協議会との共催

五感を使って自然のしくみを観察します。

期 日：7 月 30 日(土)13:30～18:00(9:30 受付) 31 日(日)10:00～15:30 雨天実施

日帰り二日間 30 日午前中は協議会で運営

会 場：名古屋市守山区 小幡北コミュニティーセンター予定 (または守山スポーツセンター)

守山区緑が丘 867 TEL052-792-9866 (ゆとりーとライン白沢溪谷駅下車 徒歩 10 分)

受講料：指導員 3,400 円(1750 円の受講料+テキスト 1650 円) 一般 3,700 円

※二日間とも昼食持参。30 日夜の宿泊希望の方はお申込み時にお知らせください。

定 員：30 名 ※多数の場合は抽選

参加対象：18 歳以上で、二日間とも参加でき、ネイチャ・フィーリングに関心のある方。

☆初心者歓迎！ 詳しくは次号・協議会ニュース 174 号(チラシ同封)参照

### ＜編集後記＞ 今年度計画している企画を紹介します。

3 月の総会時の講演には松岡敬二氏(前豊橋自然史博物館長)を予定していましたが、総会を書面表決としたので、止むを得ず講演会も中止となりました。

中央構造線ツアーは鳳来寺山自然科学博物館 学芸員 西村拓真氏の異動がなければ実施の予定です。新指導員を含むキノコの研修会を 10 月 10 日(月・祝)、指導員・ベテラン対象に稲武のリーダー養成講習会は 10 月 22 日(土)、予備日 10 月 30 日(日)を予定しています。生物分類・生態研修会については、岐阜県自然観察指導員連絡協議会と連携して岐阜県立博物館で出来ないかと計画をしています。コロナ禍が落ち着いてから連絡をすることにしていきます。協議会の交流の日については、知多支部の 40 周年記念事業(11 月 19 日(土))に組み込めるように考えています。

|            |                          |
|------------|--------------------------|
| 編集スタッフ     | 石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能 |
| 協議会ニュース編集部 | 石原則義 事務局に同じ              |

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail: norinameobata@yahoo.co.jp Web Page: <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)機関誌「協議会ニュース」173 号 2022 年 3 月発行